

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.39

寒い日が続きます。でも、よく見ると、あちらこちらに春の気配が…。今年の立春は、2月3日。暦の上では、「春立てる日」ももうすぐです。そこで、今回は、その前日の「節分」(鬼は外～、福は内～)にちなんで、「鬼」にまつわる本を紹介します。

『ほんとうにこわい今昔物語 地獄より鬼たちがあらわれるの巻』 沼野 正子

以前紹介した「今昔物語集」。その中から、沼野さんが、これは！と思った話を「～の巻」というくくりで紹介してくれる全5巻の内の1冊です。(えっ！古典？と思ったそこのあなた！大丈夫です。今の言葉と楽しいイラストの本ですから。ほら、古典に高い壁を作らないで！)その中から一つ紹介します。今でも人気の「陰陽師・安倍晴明」にまつわる話。酒に酔った侍が、「鬼なんか怖くない。殿様の馬さえもらえれば、あのアギの橋を渡ってみせるわい。」とほらを吹きます。(アギの橋は怖い鬼が出ると噂の橋です。)それを聞いた殿様が、馬を貸してくれたから、一大事。策略を用いて難を逃れようとしますが…。この侍の運命やいかに！安倍晴明の知恵は役に立ったのか！続きは、図書室で！

『Momotaro, The Peach Boy』 Gakken

Once upon a time, an old man and old woman lived in a small village.

・・・あら！どうしたのかしら？英語の本ですか？そう思ったあなた！よく見てください。タイトルを！「Momotaro, The Peach Boy」そうです、気付きましたね。これは、皆さんもよくご存じの「桃太郎」の英語訳の本です。この「楽しい英語・名作童話」シリーズは、誰もが知っている「日本の昔話・世界の童話」を易しい英語と、日本語で紹介してくれる楽しいシリーズです。知っている話ばかりなので、安心して楽しむことができます。また、「へえ～、あの日本語は、英語で言うと～なんだ！」という新しい発見、驚きもありおすすめです。どうですか？「桃太郎」＝「The Peach Boy」ですよ！なんだか急に、「桃太郎」が、キュートになった気がしませんか？他にも、「したきりすずめ」「おむすびころりん」「あかずきん」「にんぎょひめ」など、全部で10タイトルあります。あっ、どこに鬼が？それは、今さら言うまでもありませんね！



『鬼滅の刃 ノベライズ』 吾峠 呼世晴 原作/絵 松田 朱夏 著

この作品は、私が紹介するよりも、皆さんの方がよく知っていますね！はい、あの「鬼滅の刃」の小説版です。どこかの映画と同様に？便乗商法、人気にあやかって紹介しましょう！昨年9月に入れた本ですが、途切れることなく絶賛貸し出し中の本です。— 守るため振るえ、滅私の刃。時は大正。竈門炭治郎は、鬼となった妹・禰豆子のため、家族を奪った鬼を討つため刃を取る。— アニメ・マンガの力、恐るべしです。こんな難しい漢字も、言い回しも、難なく乗り越え、小さな子もかっこいいポーズを決めています！ぜひ、手に取ってみてください！

「最後におまけです。節分にまかれる「豆」は「魔目」(鬼の目)を「魔滅」(やっつける)からきているとか。ちなみに、2月2日が節分なのは、124年ぶりだそうですよ。